

## インドネシア地震 二〇〇五年

二〇〇五年五月二七日、インドネシアのジョグジャカルタ州及び中部ジャワ州を襲った地震は、リヒタースケール(マグニチュード)五・九を記録した。それは五七秒間続き、五、七〇〇人以上が死亡し、四七、〇〇〇人が負傷し、五〇万以上の家屋が破壊された\*。国連ジョグ／中部ジャワ地震対策本部避難集団の調整官／技術顧問デーブ・ホジキンによれば、

「ジョグでは、片付け作業は地域共同体的ゴトン・リヨン(共同体働き蜂)が主体となって清掃と瓦礫の片付けが行われた。瓦礫撤去によって脅かされるリスクについてはどこも同じで、注意が払われなかった。低地、道路わき、水田、川は全て、わずか一分間の地震によって生成された数百万トンの廃棄物の投棄場所になった。

家族たちは、瓦礫、レンガ、木材、鉄、窓、ドア、屋根タイル、アスベスト・シートなど、再使用できる可能性のあるものは何でも拾い集めていた。瓦礫粉砕機、掘削機、ブルドーザー、そして労働者が、瓦礫を片付け、道路路盤、基礎詰などに使えるものは何でも再使用していた。

アチエでは、緊急避難団の理解あるメンバーが、アスベスト廃棄物の安全な取り扱いを推進し、さらなる購入はしないよう働きかける特別な公衆のための文書を作成するために、厳しい資源(時間と金の両方)の一部を割いた。

災害復旧の努力は、災害の規模が大きいことなど多くの要因によつてしばしば阻害された。ジャワ地震で被害を受けた八、〇〇〇の集落からなる八〇〇以上の村で、読み書きのレベル及びメディアアクセスの様々なレベルがある中で公共のサービスを提供することは大変なことである。\*」

\* [原注78] <http://www.un.or.id/yogya/index.asp>

\*\* [原注79] Email from Dave Hodgkin to Laurie Kazan-Allen. March 1, 2007.